

みんなの「なんなの？」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎こども記者ニュース

発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.37

信毎こども記者クラブは16日、取材教室「たんけん 信濃のわざ 松本民芸家具編」を松本市の松本民芸家具本社工場で開きました。約400年前に松本城を造った時に始まった、松本の家具作りの伝統。その知えやわざを引きつぎながら、職人さんが作り続ける様子を取材。ブックエンドを作ったり、出来上がった家具に触れた、手間かけの物を感じました。



温もり伝わる家具

チームワークで作上げる



昔琴茉依 記者 松本市5年

松本民芸家具は、チームワークで作上げていきます。工場では仕事に準備をする人は「木取り」といいます。松本の辺りでは「木取り」といいます。設計図を見て、木のどの部分をどこに使うかを考え、機械で切りますが決まる重要な仕事です。みんなで力を合わせて作る、細かい決まりごとのある仕事だなあと思いました。



ブックエンド一つにもすごい手間



溝口桃子 記者 伊那市4年

カッラの木をつかったブックエンドを作りました。くぎは使いませんが、あなが大きくなってゆるんだらしてしまつたためです。まず、そこになる面と、かべになる面をつなげるために、のみで正か面にあなをほります。そこへかべの面をはめこみ、足をつけます。やすりで面取りをして、かどを丸くしました。とりようをぬり、ぬのでふいてあげました。

一つ作るだけでものすごい手間がかかりました。家具を作るのもっと大変だと思えます。しよく人さんは、すごいと思うをしています。



講師の池田素民さん

工場で作るブックエンド作り。無言になるほどいいうけんめい

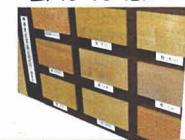
ねむくなるほどきもちいい



楽山結衣 記者 松本市4年

シヨールームへ行つて、思ったことや感じたことがたくさんあります。みんなが「目見て松本民芸家具と分かるように、家具と分けるように、同じ色でぬっていました。2階にあがるまでの手すりも同じ色だったので、池田さんに「これも松本民芸家具ですか」と聞いてみると「水目桜を使って、松本民芸家具の職人さんが作ったものです」と教えてくれました。木の見本もあって、水目桜、栗、栓、ケヤキ、トチ、ニレ、ナラ、タモ、桂の9種類がありました。それぞれかさやかんしよくがちがいました。

戸だながあけやすくて、ごっこつしていませんでした。たなの表などは、めだつので、とてもいい木がつかってありました。いすの中でも、特にロッキングチェアは、ゆらゆらしていて、ねむくなるし、とても気持ちよかつたので、ほしくなつてしまいました。



シヨールームの手すりも松本民芸家具の職人さんが作ったもの



親方となりで作っているお弟子さん

